

学童保育の利用に関する母親向けの実態調査 放課後児童クラブに、学習的な機能を期待

一般社団法人キッズコーチ協会(東京都世田谷区、代表理事:島根太郎/以下、当協会)は、学童保育(放課後児童クラブ)の利用実態や、保護者が学童保育に求めるサービスを明らかにすることを目的に、首都圏、中京圏、近畿圏に在住し、現在、小学生の子どもを学童保育に通わせている女性(母親)を対象に、学童保育に関する保護者目線の実態調査を行いました。この調査は、学童保育を利用する母親の意識を定量かつ経年で把握するために、2013年度から実施しています。

共働き世帯の増加に伴い、学童保育に対する需要も年々拡大し、昨年の厚生労働省の調査では、待機児童数が全国で16,941人となりました。国全体の目標としては、平成31年度末までに、放課後児童クラブについて、約120万人分の新たな受け皿を整備することを目指して、量の確保が徐々に進んでいます。今後益々重要となるのが「保育の質」の確保となり、各自治体では、多様化する保育ニーズに対応するために、公設民営化の動きが進んでいます。また、都市部では、民間学童保育が増え、学習塾が運営する学童保育では、認知能力や中学受験に向けた学習プログラムの充実、保育園・鉄道会社などが運営する学童保育では、非認知能力を重視したプログラムの充実を図り、内容も多様化しています。

今年9月末に、文部科学省が全国学力・学習状況調査の結果を公表しました。全国的には学力の底上げが進み、成績上位県と下位県の差が縮小しました。しかし、ユニセフ(国連児童基金)が2016年4月に公表した報告書によると、子どものいる世帯の所得格差は、日本が41カ国中8番目に大きく、また、他の各種統計から見ても、その格差は緩やかに増大している傾向にあり、所得格差は、子どもの教育・学力格差に影響することがわかっています。民間学童保育を利用する場合、公設学童保育の利用料の10倍以上になることもあり、経済格差がそのまま教育格差につながる可能性があります。

今後、学童保育は、質・量の両面において、社会全体から一層の充実が求められていくと考えられます。今回の調査は、このような社会的背景を受け、利用者である母親の視点から、学童保育の利用実態や利用者としての評価・期待を明らかにし、今後、学童保育業界全体が利用者の目線に立って発展していくための一助となることを目的に実施いたしました。

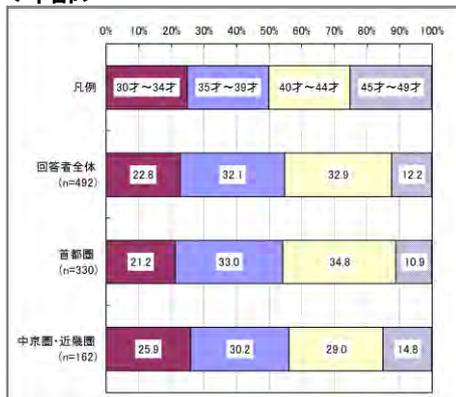
【調査結果のポイント】

- **学童保育の利用実態** (P.3~)
 - 利用している学童保育の運営主体は公設(「公立公営」(48.6%)、「公立民営」(16.5%))の合計が65.1%
 - 学童保育を利用している母親の48.6%が「週に5回(日)以上」利用
- **学童保育に対する期待** (P.4~)
 - 学童保育で過ごす時間を通じて一番身につけて欲しい能力は、「集団生活、集団行動への順応力」が59.8%
 - 学童保育を利用に際して期待したことは、「学校から近い」(85.6%)、「行き帰りが安全」(82.1%)。次いで「緊急時の連絡が適切」(80.9%)、「支援員の人数が充実している」(74.8%)
- **学童保育に対する評価** (P.7~)
 - 現状の学童保育で満足度が高いのは、「学校や家から近い」(78.0%)、「行き帰りが安全」(71.1%)。一方、満足度が低かったのは「学校の勉強の補習ができる」(38.2%)。
- **今後の学童保育に向けて** (P.8~)
 - 学童保育の機能で期待が高いのは「施設内で実施する、子どもが楽しめるイベントがある。」(37.0%)、「体を動かす機会」(36.0%)

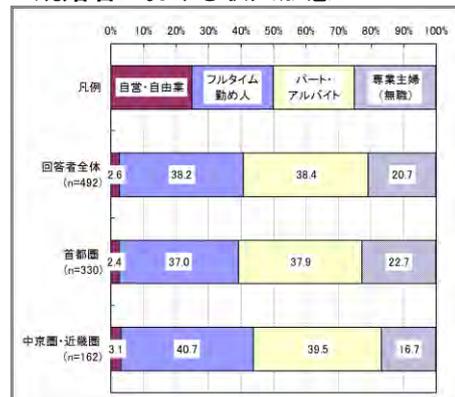
【調査概要】

- 調査方法：インターネット調査(回答者の抽出や調査の実施は㈱マクロミルに委託)
 調査地域：首都圏(東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県/東京駅を中心とする半径40km圏)、
 中京圏・近畿圏(名古屋駅を中心とする半径15km圏・大阪駅を中心とする半径30km圏)
 調査対象：30歳～49歳で、現在学童保育を利用している母親
 サンプル数：合計412サンプル(首都圏330サンプル、中京・大阪圏162サンプル)
 調査時期：2016年7月初旬から7月中旬
 回答者属性：

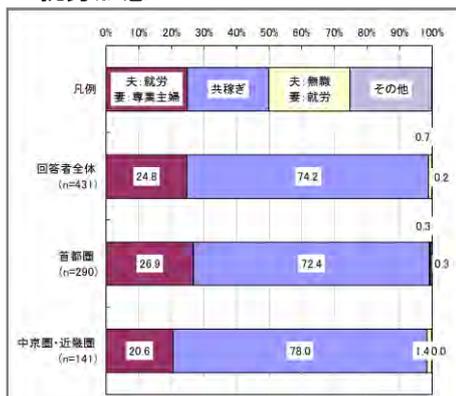
<年齢>



<既婚者における収入形態>



<就労形態>



<子どもの学齢>



備考：各調査項目については「地域別」、「家計形態別」、「母親の就労形態別」、「学童保育の設立主体別」、「利用料金別」に集計を行っておりますが、本リリースではその中から特に違いがみられたものを抜粋して記載しています。
 さらに詳細な調査結果をご希望の場合は、当協会までお問い合わせ下さい。

<キッズコーチ協会について>

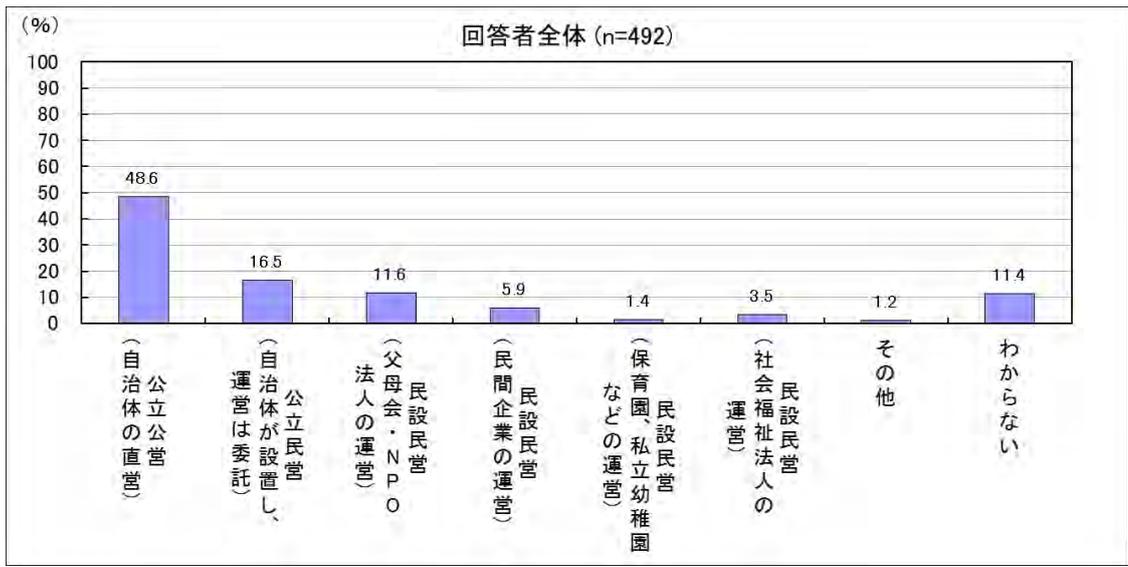
- 法人名：一般社団法人キッズコーチ協会
- 所在地：東京都世田谷区玉川 2-14-9 ツインシティーH 3F
- 設立：2012年
- 代表理事：島根 太郎 (株式会社キッズベースキャンプ 代表取締役)
- 事業内容：保育資格制度『認定キッズコーチ』の運営
 子どもと関わるための基礎力の習得を目的とした検定『キッズコーチ検定』の運営
- 目的：『認定キッズコーチ』や、『キッズコーチ検定』を通して、子育てがしやすい環境の整備や、保育人材の確保及び質の向上、学童保育業界全体の発展に寄与する

◀報道関係の方のお問い合わせ先▶

一般社団法人キッズコーチ協会(株式会社キッズベースキャンプ内)
 広報担当:三沢 敦子
 TEL: 03-5797-3566 FAX: 03-3700-5567 / E-mail: pr@kidsbasecamp.com

【学童保育の利用実態】

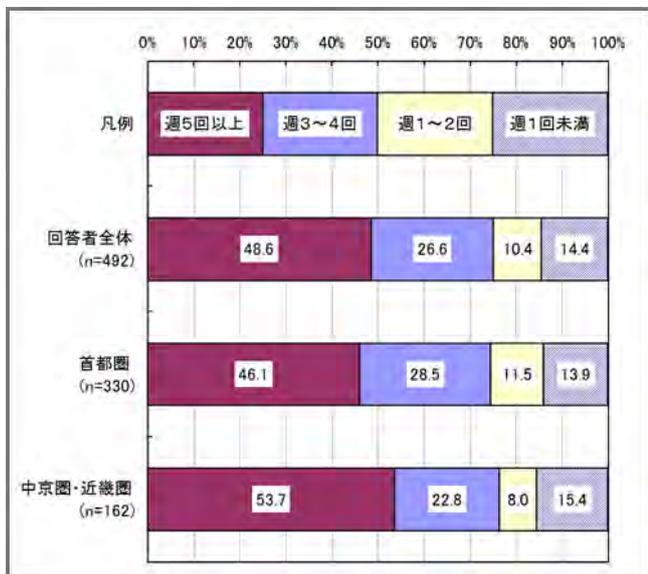
◆あなたが現在利用している学童保育の運営主体を教えてください。(回答は一つだけ)



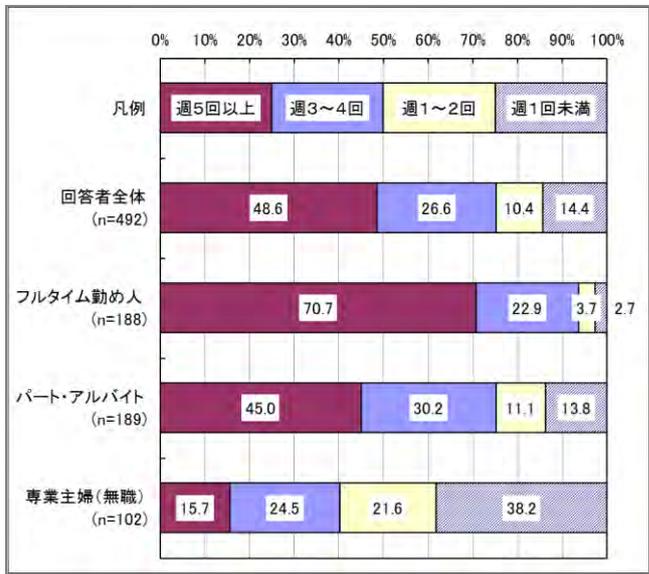
- ✓ 学童保育の運営主体をみると、回答者の 48.6%が「公立公営」と答えています。これに「公立民営」(16.5%)を加えた「公設」の学童保育を利用している人は、回答者の約 65.1%に達します。
- ✓ 2013 年度からの経年変化を見ると、回答者全体、首都圏、中京・近畿圏のいずれにおいても、「公立公営(自治体の直営)」利用が減少し、代わって「公立民営(自治体が設置し、運営は委託)」や「民設民営(父母会・NPO 法人の運営)」利用の割合が高くなっています。

◆あなたのお子様は、放課後児童クラブ(学童保育)をどれくらいの頻度で利用していますか。(回答は一つだけ)

【全体・地域別】

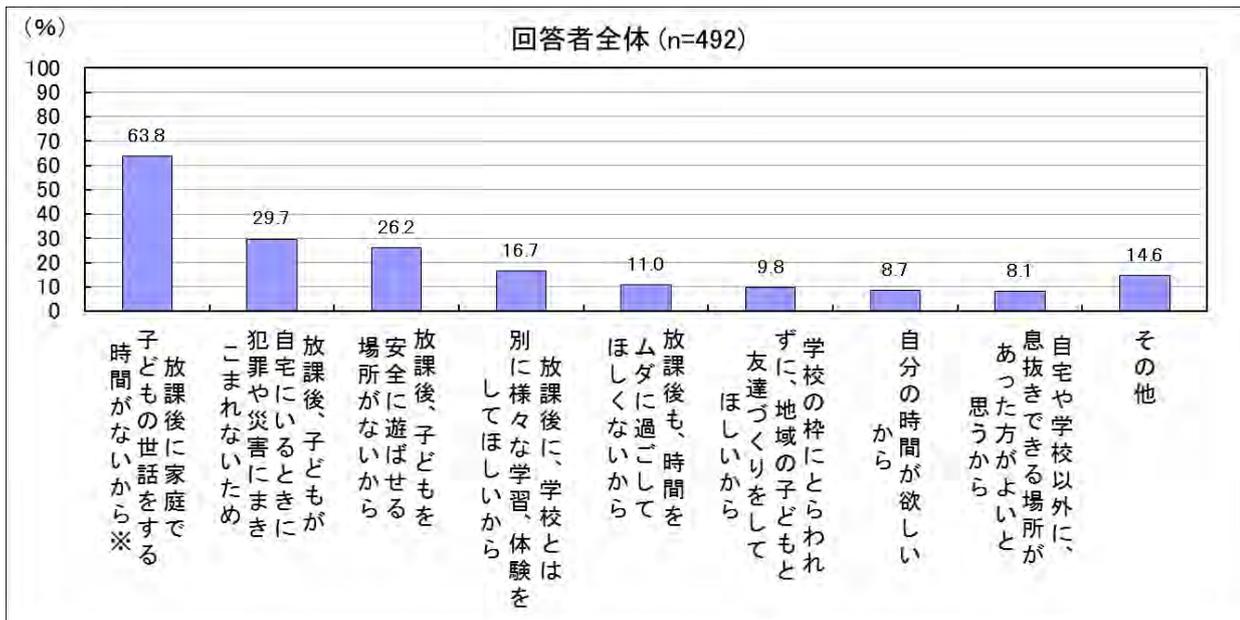


【母親の就労形態別】



- ✓ 学童保育の利用頻度をみると、48.6%の人が学童保育を「週 5 回(日)」以上利用しています。
- ✓ 母親の就業形態別では、フルタイム勤め人の 70.7%が「週に 5 回(日)以上」となっています。また、パート・アルバイトでは、45.0%が「週に 5 回(日)以上」、30.2%が「週に 3 回~4 回(日)」となっています。

◆あなたは、どのような理由で学童保育を利用していますか。(回答はいくつでも)



- ✓ 学童保育を利用する理由(3つまで選択)では、63.8%の人が「放課後に家庭で子どもの世話をする時間がないから」を挙げています。次いで「放課後、子どもが自宅にいるときに犯罪や災害にまきこまれないため」(29.7%)、「放課後、子どもを安全に遊ばせる場所がないから」(26.2%)が挙げられています。
- ✓ 回答者全体、および首都圏の放課後児童クラブ利用者では、利用理由として最上位に挙げられている「放課後に家庭で子どもの世話をする時間がないから」について、2014～2016年度にかけて顕著に減少しています。

【学童保育に対する期待】

◆あなたが学童保育で過ごす時間を通じて、お子様に身につけて欲しい能力はなんですか。(回答は3つまで)

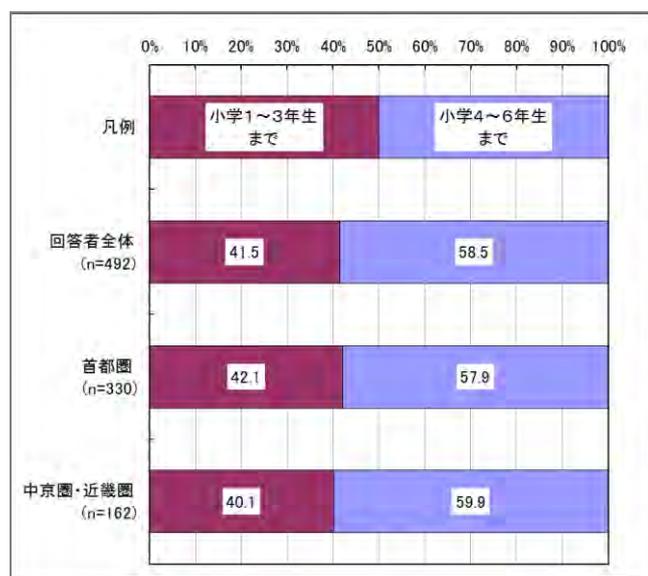


- ✓ 学童保育で子どもに身につけて欲しい能力(3つまで選択)では、「集団生活・集団行動に順応する力をつける」(59.8%)が最も多く挙げられています。次いで「相手の気持ちや立場を理解する力を身につける」(36.4%)、「マナーや挨拶、礼儀を身につける」(26.4%)の習得と続きます。

◆あなたは、お子様が何年生になるまで、放課後児童クラブ(学童保育)を利用したいとお考えですか。

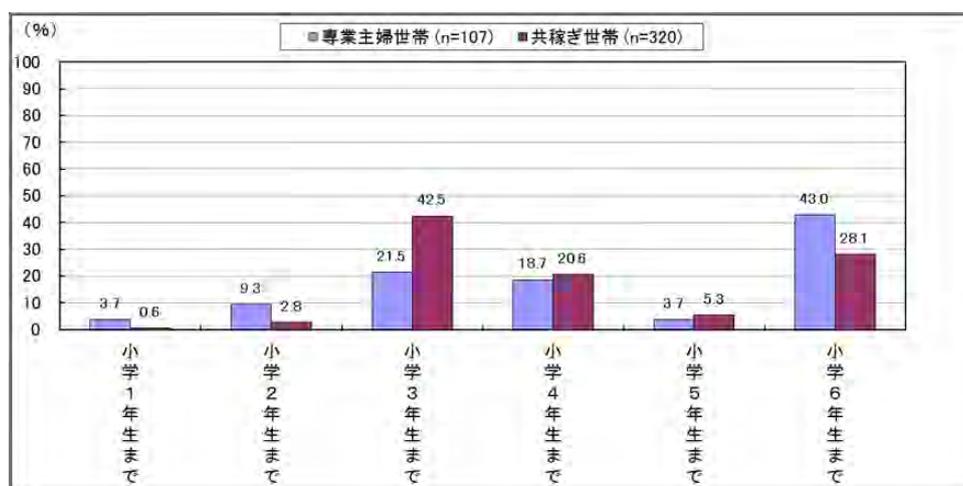
(回答は一つだけ)

【全体・地域別】



- ✓ 学童保育の利用期限(学齢)については、「小学校低学年まで」(41.5%)と「小学校高学年まで」(58.5%)で、高学年までの利用を望む人が多数派でした。

【家計形態別】



- ✓ 家計形態別に放課後児童クラブの利用期限(学齢)をみると、「小学3年生まで」においては、専業主婦世帯よりも共稼ぎ世帯の割合が高くなっています。一方、「小学6年生まで」においては、共稼ぎ世帯よりも専業主婦世帯の割合が高くなっています。

◆あなたが放課後児童クラブ(学童保育)を利用する前に、どのようなことを期待しましたか。

(回答はそれぞれ一つずつ)



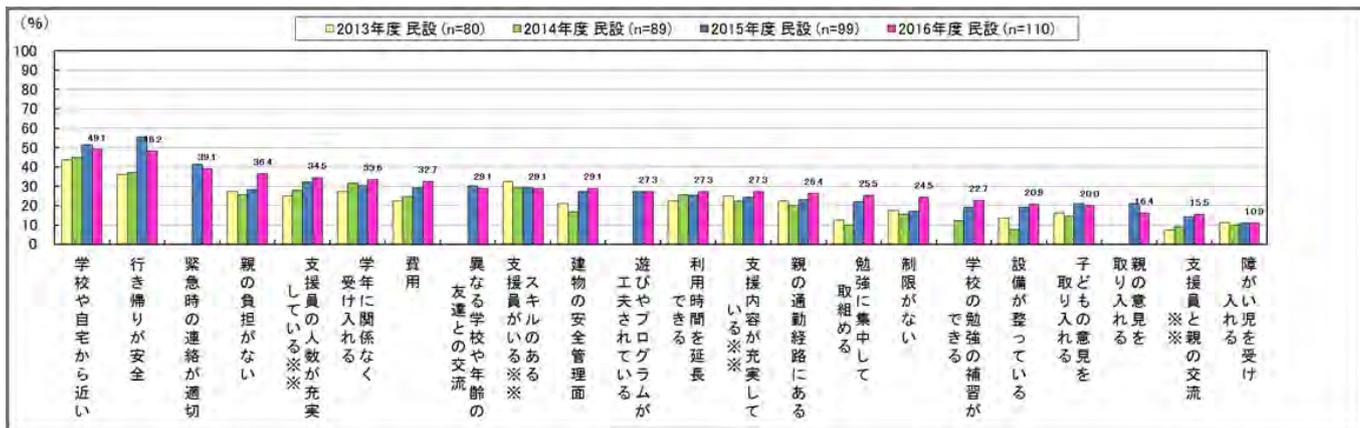
- ✓ 学童保育の利用に関する選択肢について、それぞれどの程度期待したかをたずねると、期待したこと(「とても期待した」と「やや期待した」の合計)では、「学校や自宅から近い」(85.6%)、「行き帰りが安全」(82.1%)、「緊急時の連絡が適切」(80.9%)が最上位に挙げられています。次いで、「支援員の人数が充実している」(74.8%)という指導員に対する期待が挙げられています。

【家計形態別】



- ✓ 家計形態別に放課後児童クラブの利用理由をみると、「放課後に家庭で子どもの世話をする時間がないから」「放課後、子どもが自宅にいるときに犯罪や災害にまきこまれないため」については、専業主婦世帯よりも共稼ぎ世帯の割合が顕著に高くなっています。
- ✓ 一方、「自分の時間が欲しいから」については、共稼ぎ世帯よりも専業主婦世帯の割合が顕著に高くなっています。また、「放課後、子どもを安全に遊ばせる場所がないから」「放課後に、学校とは別に様々な学習、体験をしてほしいから」「放課後も、時間をムダに過ごしてほしくないから」についても、共稼ぎ世帯よりも専業主婦世帯の割合が高くなっています。

【設立主体別】

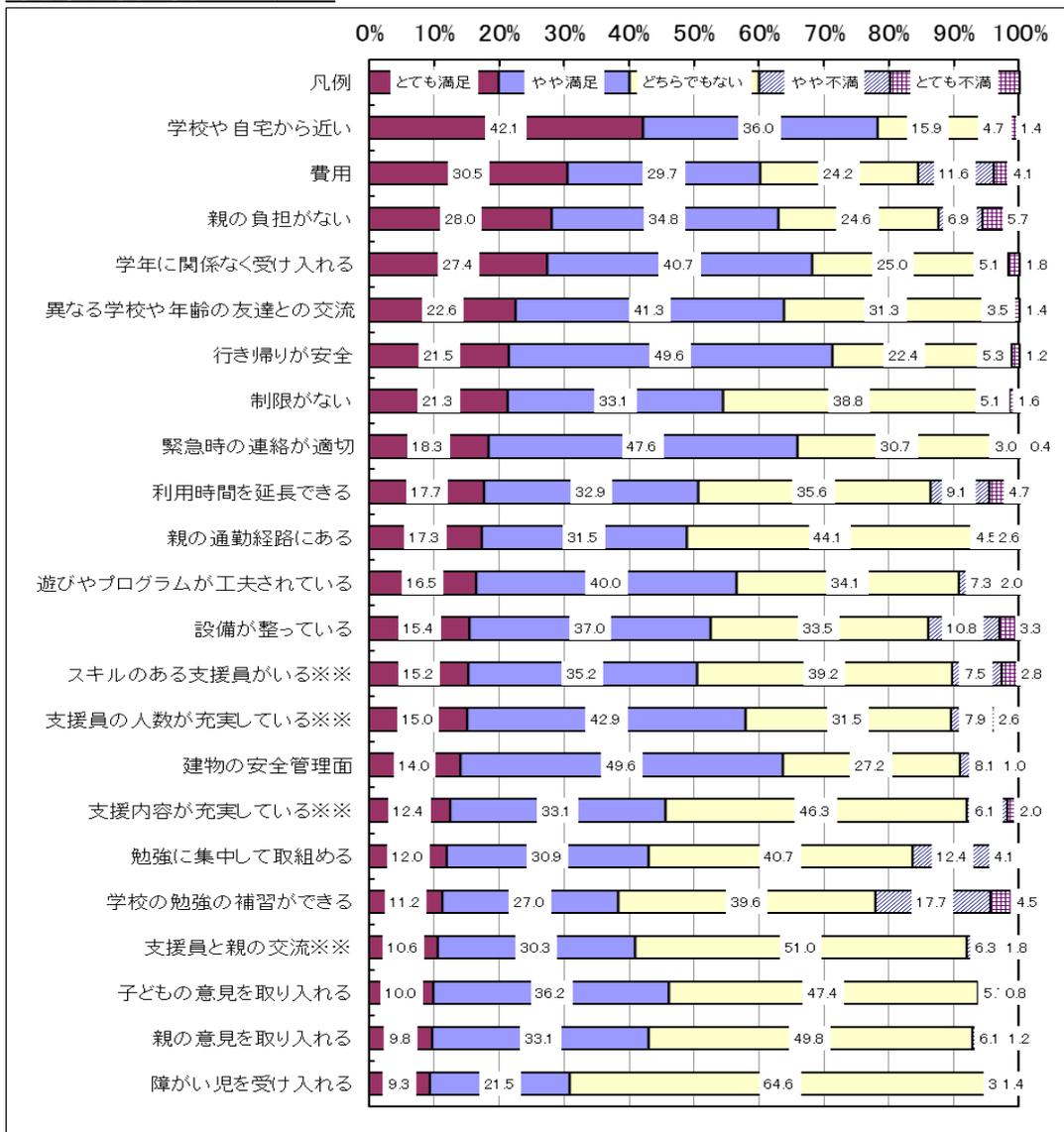


- ✓ 2013 年度からの経年変化をみると、回答者全体では、「費用」「学校の勉強の補習ができる」について、「とても期待した」人の割合が高くなっています。首都圏の放課後児童クラブ利用者では、「費用」「異なる学校や年齢の友達との交流」「勉強に集中して取組める」「学校の勉強の補習ができる」について、「とても期待した」人の割合が高くなっています。

【学童保育の評価】

◆あなたからみて、現在利用している放課後児童クラブ(学童保育)にどの程度満足していますか。

(回答はそれぞれ一つずつ)

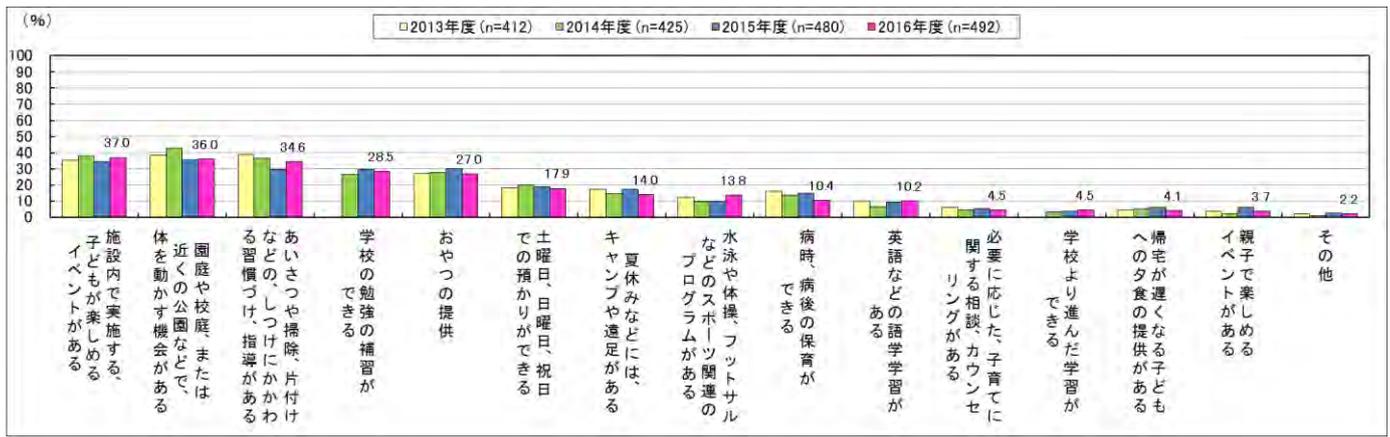


- ✓ 首都圏の放課後児童クラブ利用者、中京・近畿圏の放課後児童クラブ利用者のいずれにおいても、放課後児童クラブの現状に満足している事柄として、「学校や自宅から近い」「費用」「親の負担がない」「学年に関係なく受け入れる」が上位に挙げられています。

【今後の学童保育に向けて】

◆学童保育にはさまざまなサービス・プログラムがありますが、あなたが放課後児童クラブ(学童保育)に期待する機能は何ですか。(回答は3つまで)

【経年変化】



- ✓ 放課後児童クラブのプログラムとして、「施設内で実施する、子どもが楽しめるイベントがある」「園庭や校庭、または近くの公園などで、体を動かす機会がある」「あいさつや掃除、片付けなどの、しつけにかかわる習慣づけ、指導がある」を特に期待しています。

【中京・近畿圏の経年変化】

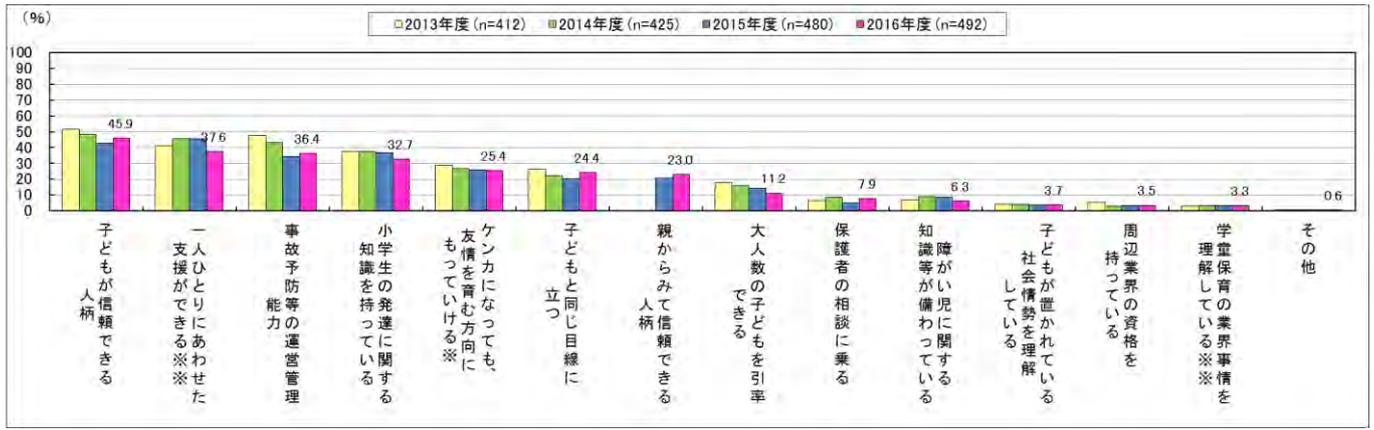


- ✓ 中京・近畿圏の放課後児童クラブ利用者では、「園庭や校庭、または近くの公園などで、体を動かす機会がある」を期待する人が減少しているが、反対に「水泳や体操、フットサルなどのスポーツ関連のプログラムがある」「英語などの語学学習がある」を期待する人の割合が高くなっています。

◆あなたが、放課後児童クラブ(学童保育)の放課後児童支援員に対して期待することは何ですか。

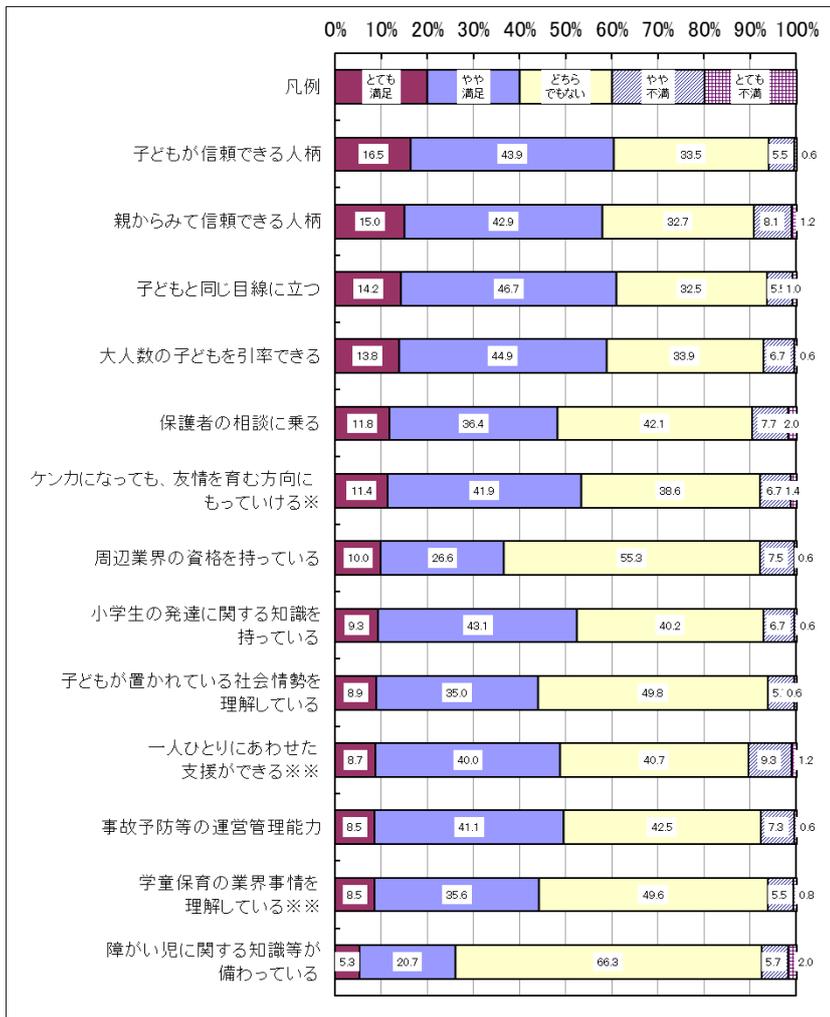
(回答は3つまで)

【経年変化】



- ✓ 放課後児童クラブの支援員に対して、「子どもが信頼できる人柄」(45.9%)が特に期待されています。
- ✓ 回答者全体、および首都圏に住む放課後児童クラブ利用者では、「子どもが信頼できる人柄」「事故予防等の運営管理能力」「子どもと同じ目線に立つ」を期待する人の割合について、2013～2015年度までは減少傾向にありましたが、2016年度では上昇に転じています。また、「大人数の子どもを引率できる」については、期待する人の割合が減少しています。

◆現在お子様が通っている放課後児童クラブ(学童保育)の児童支援員について、どれくらい満足していますか。(回答はそれぞれ一つずつ)



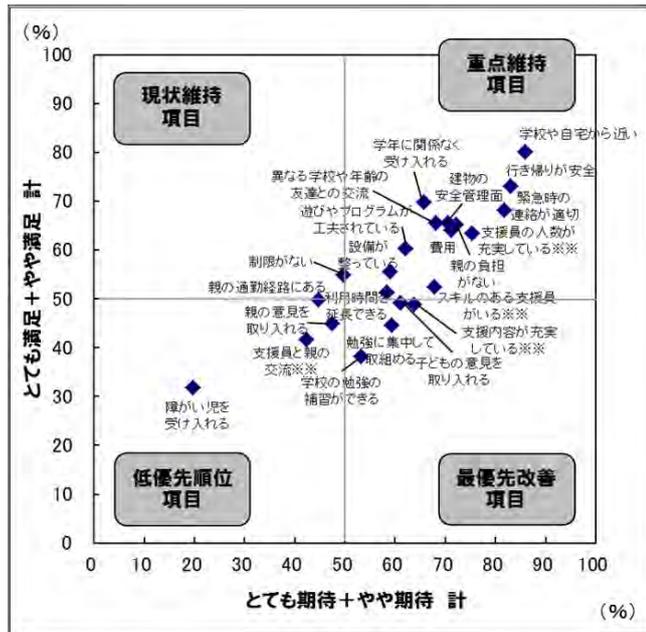
- ✓ 放課後児童支援員に対する満足度(「とても満足」と「やや満足」の合計)をみると、「子どもと同じ目線に立つ」(61.0%)「子どもが信頼できる人柄」(60.4%)の項目で満足度が高くなっています。反対に、不満(「やや不満」と「とても不満」の合計)が最も高かったのは、「一人ひとりにあわせた指導ができる」(10.6%)でした。

◆放課後児童クラブのサービスについて

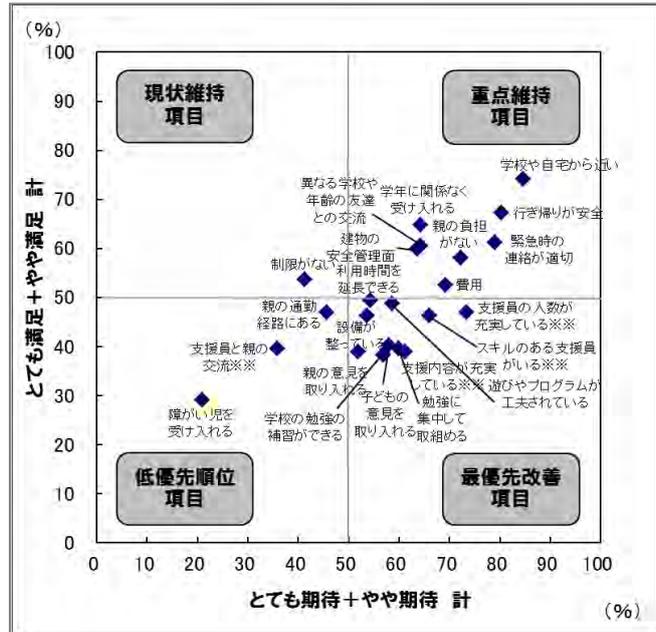
放課後児童クラブに対する期待度(「とても期待した」「やや期待した」の合計)と、満足度(「とても満足」「やや満足」の合計)の2つの指標を用いて、今後の対応課題の抽出(CSポートフォリオ)を作成。

【地域別】

●首都圏



●中京圏・近畿圏



- ✓ CSポートフォリオにおける『最優先改善項目』には、過年度から継続して「支援内容が充実している」が挙げられており、これに加えてさらに「勉強に集中して取組める」「学校の補習ができる」が位置づけられています。これにより、放課後児童クラブにおいて、継続して「学習」に関わる機能、環境が重視される傾向がみとれます。
- ✓ 放課後児童クラブの利用理由として、「放課後に家庭で子どもの世話をする時間がないから」「放課後、子どもが自宅にいたときに犯罪や災害にまきこまれないため」が上位に挙げられています。また、取り上げた選択肢以外(「その他」)の利用理由として、少数ながら「子どもが希望した」といった理由が挙げられています。
- ✓ 放課後児童クラブに通わせて良かったと思う点を見ると、上記の「安心」の他、「宿題をみてる」といった「子どもの学習、習慣づけ」に類する意見(自由記述)が多く寄せられています。また、子どもにとって、学校や年齢を越えて「友達ができる」などが挙げられています。母親にとっては、放課後児童クラブに子どもを預けることによる「安心」の上に、子ども同士の交流、そして様々な「学習」的な機能を期待していることが推測されます。